



にしかなさじんじゃ 西金砂神社

基本データ 住所：常陸太田市上宮河内町 1915

17 日(土)のみ

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ
15 時まで	○	○	○	○

* 社務所内は撮影禁止です。

※ 参道が狭いので、車での通行にご注意ください。

西金砂神社の来歴

西金砂神社は、西金砂山の山頂にある神社で、平安時代前期の延暦 25 年（806）3 月 11 日、宝珠上人が社殿を造り祭壇を設け、近江国比叡山日吉権現を勧請、祭祀したのが始まりと伝わります。祭神は
おおなむちのみこと くにとこたちのみこと すくなひこなのみこと
大己貴命と国常立命、少彦名命です。

創建当時は、比叡山延暦寺の伽藍を模した七堂伽藍中堂を設け、諸沢村堂平（現・常陸大宮市諸沢）に千手観音を、赤土村太平山（現・常陸太田市赤土町）に鐘楼と経堂を建てたほか、中染村羅漢沢（現・常陸太
じゅうろくらかん
田市中染町）に十六羅漢を祀ったと伝わります。

中世には常陸国を領した佐竹氏の厚い崇拜を受けました。近世には徳川光圀の宗教政策によって西金砂山から寺院や古仏像を廃し、僧侶を別の地に移すとともに社地 26 石を寄せられました。

西金砂神社では 72 年に一度「磯出大祭礼」が執り行われ、相対してそびえる東金砂神社とともに 500 名を超える行列が天下泰平・万民豊楽・五穀豊穰を目的として、6 泊 7 日をかけて往復約 80 km の行程を神輿とともに進むことでも知られます。磯出大祭礼は、近年では平成 15 年（2003）に執行され、次回は 2075 年となります。

また、西金砂神社では 6 年に 1 度、小祭礼が執行されます。西金砂神社の小祭礼は、弘仁 6 年（815）に行われたのがその始まりとされ、その後は 6 年毎の丑・未年に執行される慣習となりました。現在では常陸太田市馬場町まで 3 泊 4 日をかけて御神輿が渡御。途中の集落で祭典と田楽舞が行われ、天下泰平と五穀豊穰が祈られます。また、社務所からは神輿行列と別行動をする一隊が出発し、水木浜に向いて潮水を汲んで神社に帰ります。小祭礼の最後には汲み上げられた潮水を用いてご神体が浄められ、社殿へと還御します。これまでの執行回数は 200 回を数え、令和 9 年春には 201 回目の小祭礼が予定されています。



西金砂神社本殿

西金砂神社の指定文化財

○ 西金砂神社田楽舞 県指定文化財（昭和 35 年 3 月 28 日指定）

【国選択】記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（昭和 46 年 4 月 21 日）

西金砂神社田楽舞は 72 年に 1 度举行される磯出大祭礼や 6 年に 1 度（丑・未年）におこなわれる「小祭礼（小田楽）」等で奉納される舞です。現在は、氏子と神社関係者の方々と構成される保存会によって継承されています。

構成

第一段 四方固め（しほうがため）

孔雀の鳥兜に猿田彦の面をつけ、大鉾をもって東北西南の順に四方枳形に舞うもので、天照大神が瓊瓊杵尊を降臨させた際に猿田彦命が出迎えた場面を再現した舞です。武力を否定し、恒久的な平和を確立した建国精神に沿ったものと言われています。

どこからも悪いものが寄ってこないよう、力強く大地を踏みしめる呪術「閉閑」^{へんぱい}と称する地固めと考えられています。



（写真）四方固め

第二段 獅子舞（ししまい）

笑いの面を被った舞人、大国主命^{おおくにぬしのみこと}が鈴に興じながら舞う場面で、獅子に象徴される荒ぶる神々を和める舞です。

この舞は、武力を用いず仁徳をもって国を統治することをあらわしており、獅子が四つん這いになり尻尾についた大鈴を振りながら這いまわる姿は、田を耕す所作とも言われています。「えんぶり」のしぐさによって田に良い霊力を祝う呪術でもあり、田楽の最も重要な内容のひとつとされます。



（写真）獅子舞

第三段 種子まき（たねまき）

種子まきは、蓮葉笠を冠ることから蓮葉踊りとも呼ばれる場面です。五穀豊穰を祈ったもので、前方 2 人が鉦幣、中央の 1 人笏拍子、後方 2 人が編木^{びんぎき}をそれぞれ持ち、舞台の中央で東北西南と向きを変えながら舞います。これは、苗代の種子まきを形容したもので、田の精霊を魅惑する所作であり感染術^{かまけわざ}と言われています。

舞の途中、舞台を廻る種子まき役によって種子もみが蒔かれます。これを苗代に蒔くと豊作になると言われていることから、見物人はこれを拾い集めます。



（写真）種子まき

第四段 一本高足（いっぽんたかあし）

一本高足は、鬼面を冠り、鱗模様の狩衣に小菊模様の袴、腰に飾太刀を差した舞人が、高足、羽団扇を持って舞う場面です。高足は左肩に担ぎ、羽団扇は右手に持った状態で舞台の四方を、拍手を打ちながら廻り、中央に戻ってから高足の横木に乗り、4・5回飛ぶ仕業を行います。

高天原^{たかまがはら}（『古事記』等に登場する日本神話で、天照大御神をはじめとする神々が住んでいるとされる場所）では、統一国家を造ることが目標とされました。この場面は、大国主命が統一していた出雲国に派遣された武甕槌命が大任を全うしたことを喜び、その威風堂々と振る舞う場면을形容した場面です。

この舞は、春、新しい生命力をよみがえらせるために今まで大地に潜んでいた靈魂を呼び覚まし、農作物が良くできるようにとの願いを込めたものと考えられています。



（写真）一本高足

- **西金砂のイチョウ**
県指定文化財（昭和 44 年 3 月 20 日指定）

- **西金砂のサワラ**
県指定文化財（昭和 44 年 3 月 20 日指定）

イチョウは目通り幹囲 8.2m、サワラは目通り幹囲 6.5m を誇る巨樹です。どちらも樹齢は 700 年を超えると推定されます。



（左）サワラ （右）イチョウ